

チーム力が貢献意欲を高める

耶馬溪製作所 桑野 大輔（くわの だいすけ）さん

【インタビューの概要】

船や発電所、空港などで使用されるブレーカーを製造している耶馬溪製作所。ブレーカーには精密に加工された部品が不可欠となる。同社で部品の成型機器オペレーターを務める桑野 大輔さんにお話を伺いました。



ブレーカーの
成型機器オペレーター
桑野さん

●入社背景と仕事の流れ

桑野さんは、耶馬溪製作所と業務内容が似ている他社で勤務した後、同社に入社した。現在、部品の成型加工を行う上で必要な機器の設定・操作等を行う成型機器オペレーターとして同社で働いている。仕事内容は、機器の点検（異常・動作確認）と品質管理等が中心となる。また、1日の仕事の流れとしては、生産する製品の確認、機器の立ち上げと設定、試作、試作品の確認の後、同僚に指示を出して生産を行う流れとなる。

●仕事に必要な資質

「成型機器オペレーターに必要な資質は、考える力」だと桑野さんは語った。成型加工の質を高めるためには、部品の品質を確認することが重要となるが、その際にどの箇所をどのように触ればよいか、考える必要があるからだ。

また、同社はライン生産方式を採用しているため、次の工程を担当している従業員が仕事をしやすいよう常に意識しながら仕事をしているとのことであった。ブレーカーという製品は、社員が協力し合うことで高い品質の製品が完成するため、社員同士のチーム力も重要となる。桑野さんは、会社の好きなところとして、「社員がフレンドリー」な点を挙げた。同社の従業員は気さくに話しかけてくれる人が多いと語り、これらの点も高品質の製品につながっていると感じた。

●今後の抱負

同社には約350種類の金型があり、製品の規格に応じて金型を選び、プレス加工を行う成型機器の設定や、樹脂などの原材料の量を調整している。生産ラインに乗せた後、部品が綺麗に仕上がった時に充実感を感じると桑野さんは語った。また、仕事の習熟度が高まり、今までできなかったことができるようになる、働きがいを感じるそうだ。一方で、多種多様な製品を生産している同社では、生産する製品が日々変わるため、臨機応変な対応や仕事への更なる習熟度が求められる。そのため、今後の抱負として、桑野さんは「今できないことをできるようにになりたい」と語り、その表情からは仕事に対する向上心の高さが窺えた。